

平成29年度

教育委員会事務局

運営方針

目次

1	平成29年度教育委員会事務局運営の総括表	1
2	平成29年度重点取組の概要	3
3	「京都市職員コンプライアンス推進指針」に基づく取組の推進 「京都市市民参加推進計画」に基づく取組の推進	9
4	平成29年度京都市教育予算	10

平成29年度教育委員会事務局運営の総括表

基本方針・重点方針	平成29年度重点取組				
	取組名	目標	計画・条例等	所属等	
開かれた学校づくりと市民との共汗で進める教育改革	1	・保護者・地域が学校運営に参画する「学校運営協議会」の設置拡大、次期学習指導要領における「社会に開かれた教育課程」を踏まえた長期休業期間の統一や3学期制の実施を見据えた学校運営の推進	・学校運営協議会の更なる活動充実と先進的な取組事例の発信 ・中学校単位に加え、中学校区における小中合同での設置拡大 ・3学期制の実施に関する検討	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	学校指導課 生涯学習部
	2	子どもたちの教育環境の充実をめざした地域住民・保護者との共汗で進める学校統合及び新しい学校づくり	・向島中学校区小中一貫教育校創設に向けた取組推進 ・下京雅小学校新校舎整備に向けた取組推進 ・御所東小学校の開校に向けた取組推進 ・京北地域小中一貫教育校創設に向けた取組推進 ・小規模校の保護者・地域への的確な情報提供と論議、検討の促進	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	教育環境整備室 学校統合推進室
確かな学力の育成	3	家庭環境に関わらず全ての子どもたちの可能性を最大限引き出す確かな学力と学習習慣の定着	・小・中学校全校での「土曜学習」の実施 ・未来ステイ・サポート教室を中学校全校で実施 ・義務教育9年間の確かな学びを支える「京都市小中一貫学習支援プログラム」（全13回→15回に充実）の推進	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	学校指導課
	4	小中一貫教育ガイドライン（試案）に基づく義務教育9年間の系統性を確保した校区の状況に応じた全中学校区での小中一貫教育の推進	・全中学校ブロックで小中一貫教育ガイドライン（試案）に基づく校区の状況に応じた小中一貫教育を推進	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	学校指導課
	5	県費負担教職員給与と費移管の下での効果的な人員配置、適正な教職員評価による教員の資質・指導力向上	・移管された権限を活用・工夫した効果的な人員配置 ・ミドルリーダー層の拡大・養成に向けた研修実施 ・OJT活性化、自宅等から研修映像を視聴できる「おうちポータル」等のコンテンツ充実 ・英語教育や道徳教育等の喫緊の教育課題に関する研修の充実 ・育児休業中教職員の円滑な職場復帰に向けた支援の充実 ・給与に反映する教職員評価「査定評価」制度の円滑な実施と教職員の意欲喚起	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	教職員人事課 総合教育センター
創造的で個性豊かな子どもの育成	6	文化庁の全面的転換決定を契機とした京都ならではのグローバルコミュニケーション力育成と文化艺术活動の推進	・中・高等学校全校での茶道体験など小・中・高等学校全校での伝統文化体験活動の実施 ・小学校全校での小学校英語の早期化、教科化等を見据えた取組の推進 ・外部検定試験（英語検定等）の活用による中学・高校生への英語力向上の取組 ・海外研修・留学への支援や日吉ヶ丘高校「英語村」を活用した小中学校や地域との連携の促進 ・京都商工会議所や事業者との連携を図り、市内在住・在学中高生の京都・観光文化校定の受験を促進 ・博物館施設等での体験の充実や平安京創生館の授業等での活用推進 ・吹奏楽部への外部講師派遣の充実	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	学校指導課 生涯学習部 生涯学習総合センター
	7	環境教育・理科教育の推進と企業、大学等と連携した青少年科学センターの取組の充実	・KES学校版「環境にやさしい学校」小・中・総合支援学校（小・中学部）全校認定 ・学校・家庭・地域が一体となった取組を積極的に推進するための全校・園独自の「新・環境宣言」策定 ・子どもエコライフチャレンジ推進事業の小学校全校での実施 ・青少年科学センターの年間入場者数の増加（年間12万人） ・企業等の協力による企画展示の実施 ・京都議定書採択20周年や「京都市環境教育・学習基本指針」に基づいた取組の推進 ・科学地球館設置に向けた調査研究	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	学校指導課 青少年科学センター
	8	子どもの読書活動の推進に向けた「第3次京都市子ども読書活動推進計画」の実践と学校司書の配置拡大等、学校図書館の活用促進	・学校司書の配置日数の拡大 ・京都市図書館所蔵図書が学校への年間団体貸出冊数40,000冊以上 ・京都市図書館による学校園への出前事業や、タブレット端末型PCの活用など学校図書館の機能充実に向けた取組の実施	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	学校指導課 生涯学習部 各図書館
	9	社会的・職業的自立に向けた生き方探究教育の充実、学校での学びを地域・社会の課題解決につなげ社会参画の力や政治的教養を育む教育の推進	・生き方探究教育に係る各種体験学習の小中学校全校実施に向けた実施校の拡大 ・「政治的教養を育む教育学習指導案集」や国の副読本を活用した発達段階に応じた体系的・計画的な授業等の実施 ・地域や社会での貢献活動やボランティア活動の実施 ・学校の職場見学や「京都市会親子ふれあい職場見学会（市会事務局が実施）」等、市会事務局との連携による市会を身近に感じる取組の充実	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	学校指導課、京都まなびの街生き方探究館
	10	多文化が息づくまちづくりに向けた国際理解教育と、外国人児童生徒等への日本語指導体制等の充実	・帰国・外国人児童生徒等の受入体制の充実と個の状況に応じた日本語指導の拡充 ・日本語指導担当教員等の指導力向上を図る研修会の充実	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	学校指導課
	11	道徳の教科化に向けた道徳教育の充実や体験活動の推進等、子どもの規範意識を育む取組の推進	・6月・10月の「道徳教育推進月間」における全小・中学校全学級での公開授業（保護者参加型） ・「道徳教育推進リーダー教師」を中心とした各行政区での取組の展開等、全市をあげた研究・実践の推進 ・パンフレット「考え、議論する道徳を目標して」を活用した、授業改善の促進 ・中学校の生徒会活動、小学校児童会活動の活性化 ・長期宿泊・自然体験推進事業の全小学校での実施 ・非行防止教室の全小・中・高等学校での実施	（はばたけ未来へ！京プラン実施計画）	学校指導課 生徒指導課 花育山の家
心身ともに健康でたくましい子どもの育成 ／いのちを守り切る取組の推進	12	いじめ、不登校の未然防止と早期発見・解決に向けた取組の充実	・いじめ防止条例等に基づく「京都市子どもの豊かな心と規範意識を育む関係者会議」の開催等、市民ぐるみの取組の充実 ・国の方針の見直しや登校支援ハンドブックを踏まえた取組の推進 ・全校配置のスクールカウンセラーの週1日8時間以上配置校を拡充 ・スクールソーシャルワーカーの配置校拡大（40校）による体制の充実 ・教員が学級実態をより適切に把握するためのクラスマネジメントの活用 ・「ふれあいの社」や洛風・洛友中学校等、不登校を経験した子どもの学びと育ちを支える活動の展開	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	生徒指導課 教育相談総合センター
	13	学校・地域・保護者・関係機関等との連携による薬物乱用防止教育の徹底や、ケータイ、スマートフォン、携帯ゲーム機等、携帯情報通信機器の不適切利用防止対策の推進	・小・中・高等学校全校における薬物乱用防止教室、薬物乱用防止にかかる教職員研修の実施 ・青少年健全育成団体と学校・地域・家庭が連携した薬物乱用防止のための研修会や啓発活動の実施 ・児童向けスマホ学習「みんなで考えよう！スマートフォン・ゲーム機とのつきあい方」の充実 ・携帯電話事業者との連携による「ケータイ教室」の実施 ・京都市情報モラル携帯電話市民インストラクターによる保護者向け啓発講座の実施 ・「学校非公式サイト等のネット監視システム」の実施	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	生徒指導課 体育健康教育室 生涯学習部
	14	「健康長寿のまち・京都」の実現に向けた食育・健康教育、体力向上の取組・運動部活動の充実、安全・防災教育の推進	・栄養教諭の全校配置と食に関する指導の充実 ・京都市立小学校における食物アレルギー対応の手引に基づく食物アレルギー対策の推進 ・「京都市道学路交通安全プログラム」に基づく関係機関が連携した通学路の安全確保の取組 ・水泳指導をはじめ教育活動における安全対策の徹底 ・「ジャンプアッププロジェクト」をはじめ子どもの体力向上を目指した取組の実施 ・中・高等学校の運動部活動における外部コーチ派遣事業の積極的な活用	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	体育健康教育室

基本方針・重点方針	平成29年度重点取組			
	取組名	目標	計画・条例等	所属等
障害のある子どもへの教育の推進	15 就学前からの切れ目のない支援や総合支援学校における職業教育の充実、発達障害のある子どもへの学習支援の充実等、障害者差別解消法施行を踏まえた施策の推進	<ul style="list-style-type: none"> きめ細かな就学相談の実施 全就学前施設での「就学支援シート」事業の推進 地域・企業等との連携による新たな職業教育の推進 総合支援学校生徒の実習先企業数の拡大 LD等通級指導教室で指導を受けている児童生徒数の拡大 手話に関する理解促進 高等学校におけるLD等支援の必要な生徒への指導・支援の充実 	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	総合育成支援課
魅力あふれる市立高校づくり	16 進路希望の実現を目指す特色ある高校づくり、「新しい定時制単独高校」や「新しい普通科系高校」の創設に向けた取組、銅駝美術工芸高校の移転整備など市立高校改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 各市立高校における魅力あふれる教育の推進 「新しい定時制単独高校」創設に向けた基本設計・実施設計の着手 「新しい普通科系高校」創設に向けた基本計画の策定 銅駝美術工芸高校の移転整備に向けた基本設計の着手 	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	学校指導課
子育て支援の充実	17 子育て環境の一層の充実に向けた市立幼稚園での預かり保育の充実や、子ども若者はぐくみ局との連携	<ul style="list-style-type: none"> 市立幼稚園全園で、原則として長期休業期間中を含む平日18時までの預かり保育の充実 先進的な教育研究実践成果の私立幼稚園を含めた全市への発信など、はぐくみ局との連携による幼児教育・保育の質の向上、量の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> はばたけ未来へ！京プラン実施計画 子どもを共に育む京都市民憲章実践推進条例 	学校指導課
子どもたちがいきいきと学べる安心安全で特色ある教育環境整備	18 環境と防災に配慮した学校施設・施設整備事業の計画的な推進	<ul style="list-style-type: none"> 体育館リニューアル事業、工事着手（4校）、設計の実施（4校） 体育館改築事業：設計の実施（1校） プールリニューアル事業、工事着手（3校）、設計の実施（3校） 校舎長寿命化事業：工事着手（3校）、設計の実施（3校） 「学校施設マネジメント計画 行動計画」の策定 	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	教育環境整備室
	19 学校図書館のリニューアル、学校トイレの洋式化等、学校施設の整備推進	<ul style="list-style-type: none"> 市内産木材を活用した学校図書館の環境整備（44校） 快適トイレの整備（15校） 洋式トイレの整備（13校） 快適トイレ及び洋式トイレの整備（4校） 	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	教育環境整備室 学校指導課
生涯学習の推進	20 市民だれもが参加できる「学びのネットワーク」の構築と市立図書館の更なる利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習ポータルサイトのコンテンツの充実 博物館や大学等との連携による多彩な学習機会の提供、充実 貸出冊数、利用者数の増 図書館環境の整備 録音図書データの提供など視覚に障害のある方々の更なる利便性の向上 	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	生涯学習部 生涯学習総合センター 各図書館
	21 日本初の開催となる「国際博物館会議（ICOM）京都大会2019」の成功に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> 市民が博物館や美術館に親しむための魅力あるイベントの企画や関係団体との連携等、大会成功に向けた取組の推進 	はばたけ未来へ！京プラン実施計画	生涯学習部
	22 文化庁の全面的移転決定と2年後の番組小学校150周年を契機とした京都の教育の歴史と文化力、地域力の一層の発信	<ul style="list-style-type: none"> 学校歴史博物館開館20周年(H30)・番組小学校創設150周年(H31)の節目に向けたイベント、情報発信の充実・強化 学校歴史博物館開館以来の企画展構成「20年の彩り」の発行 多言語（英・韓・中）パンフレット作成と多言語音声案内システムの常設展導入着手 	—	学校歴史博物館

平成29年度重点取組の概要

※以降に記載する28年度の主な実績については、平成29年4月時点で把握している状況を記載しています。

1. 開かれた学校づくりと市民との共汗で進める教育改革

1 保護者・地域が学校運営に参画する「学校運営協議会」の設置拡大、次期学習指導要領における「社会に開かれた教育課程」を踏まえた長期休業期間の統一や3学期制の実施を見据えた学校運営の推進 ＜学校指導課＞

保護者や地域の方々に学校の応援団として、教育活動や学校運営に参画いただき、京都方式の学校運営協議会の活動充実・中学校及び小中合同の設置拡大を図ります。また、義務教育学校の設置を可能とする制度改正や、新学習指導要領の下で、保護者・地域との連携や小中一貫教育の更なる推進の必要性がより一層高まっており、きめ細やかに小中9年間を見通した学習評価を行い、家庭や地域にも分かりやすく開かれた教育課程とするため3学期制の実施について検討を進めます。

2 子どもたちの教育環境の充実をめざした地域住民・保護者との共汗で進める学校統合及び新しい学校づくり ＜教育環境整備室、学校統合推進室＞

より良い教育環境の実現を目指し、行政としての説明責任をより一層徹底する中で、保護者・地域と十分協議し、その論議・検討を尊重する「地元主導」による学校統合を推進します。

【28年度の主な実績】

- ・239校・園に学校運営協議会を設置
- ・23中学校区で小中合同の学校運営協議会を設置
- ・下京雅小学校の創設（醒泉小・淳風小統合）
- ・向島二の丸小学校と二の丸北小学校の一次統合 など

2. 確かな学力の育成

3 家庭環境に関わらず全ての子どもたちの可能性を最大限引き出す確かな学力と学習習慣の定着 ＜学校指導課＞

「土曜学習」の小・中学校全校での実施、義務教育9年間の確かな学びを支える「京都市小中一貫学習支援プログラム」の実施回数 of 充実などにより、基礎学力の定着・向上と自学自習の習慣化に取り組みます。更に、中学校においては、学習の遅れがちな子どもや家庭学習の習慣が身に付いていない子どもを対象に放課後等に基礎学力定着のための学習支援を行う「未来スタディ・サポート教室」を全校で実施します。

4 小中一貫教育ガイドライン（試案）に基づく義務教育9年間の系統性を確保した校区の状況に応じた全中学校区での小中一貫教育の推進 ＜学校指導課＞

義務教育9年間の子どもたちの豊かな「学び」と「育ち」の充実のため、小・中学校が目指す子ども像を共有するとともに、保護者や地域の方々に参画いただきながら、校区の状況に応じた地域ぐるみの小中一貫教育を全市で展開します。また、義務教育学校等の新制度への移行も見据え策定した「小中一貫教育ガイドライン（試案）」に基づき、平成28年度に各中学校ブロックで作成した小中一貫教育構想図等を踏まえ、ブロックの状況に応じた系統性のある取組を進めます。

5 県費負担教職員給与費移管の下での効果的な人員配置、適正な教職員評価による教員の資質・指導力向上 ＜教職員人事課、総合教育センター＞

小・中・総合支援学校の教職員の給与費が本市に移管されたことを踏まえ、より効果的な人員配置を進めます。また、ミドルリーダー養成等の今日的課題を踏まえた、研修体系構築やOJT活用、若手教員資質向上を推進し、自宅等から研修映像を視聴できる環境の充実に努めます。更に、英語教育や道徳教育等の喫緊の教育課題に関する研修や、育児休業中の教職員の研修支援を

充実するとともに、引き続き教職員の活躍を給与に反映する評価制度を実施します。

【28年度の主な実績】

- ・未来スタディ・サポート教室を拡大し、中学校 54 校で実施
- ・全中学校ブロックで校区の状況に応じた小中一貫教育構想図等の作成
- ・育児休業中教職員の円滑な職場復帰に向けた研修の実施
- ・若手・中堅教員実践道場の実施（235 校・園） など

3. 創造的で個性豊かな子どもの育成

6 文化庁の全面的移転決定を契機とした京都ならではのグローバルコミュニケーション力育成と文化芸術活動の推進

＜学校指導課，生涯学習部，生涯学習総合センター＞

東京オリンピック・パラリンピックの開催や文化庁の京都への全面的移転決定を踏まえ、本市に息づく和の文化を生活化し、京都の魅力を自らの体験等を通して発信するとともに、英語を使って海外からの観光客をはじめ外国人に“おもてなし”を実践することができる、国際文化観光都市・京都ならではのグローバルな子どもの育成を目指し、子どもたちが「日本・京都を知る取組」「日本・京都を伝える取組」を推進します。

7 環境教育・理科教育の推進と企業・大学等と連携した青少年科学センターの取組の充実

＜学校指導課，青少年科学センター＞

京都議定書採択20周年や「京都市環境教育・学習基本指針」に基づいた取組を推進するとともに、「環境モデル都市」で育つ子どもたちの豊かな感性や課題解決能力を育むため、地域や大学、企業等との連携による教育活動全体を通じた環境学習を展開します。科学センターにおいては、理科好きな子どもを育むため、企業、大学等の協力による企画展示や実験教室の開催等各種事業の充実を図るとともに、平成31年度の開館50周年に向け、展示スペースのリニューアル等を引き続き進めます。

8 子どもの読書活動の推進に向けた「第3次京都市子ども読書活動推進計画」の実践と学校司書の配置拡大等，学校図書館の活用促進

＜学校指導課，生涯学習部，各図書館＞

学校図書館の「読書センター」「学習・情報センター」としての機能充実や市立図書館との連携を進めるとともに、学校司書の配置日数の拡大を実施します。また、「第3次京都市子ども読書活動推進計画」（計画期間：平成26年度～30年度）に基づき、学校・家庭・地域等の連携の下、子どもの読書活動の更なる充実に向けた取組を進めます。

9 社会的・職業的自立に向けた生き方探究教育の充実，学校での学びを地域・社会の課題解決につなげ社会参画の力や政治的教養を育む教育の推進

＜学校指導課，京都まなびの街生き方探究館＞

「京都まなびの街生き方探究館」での、小中学生の職業・生活設計体験を行う「スチューデントシティ・ファイナンスパーク事業」、中学生の職場・勤労体験を行う「生き方探究・チャレンジ体験推進事業」及び、京都のモノづくり企業の展示・体験学習を行う「京都モノづくりの殿堂事業」等の体験学習を通し、京都の産業に対する関心を深め、自らの生きる力を育む「生き方探究教育」の充実を図ります。また、選挙権年齢の引下げを踏まえ、小・中・高等学校において、地域・NPO等との連携の下、本市独自の「政治的教養を育む教育学習指導案集」や国の副読本を活用した実践的授業や地域や社会でのボランティア活動、生活に密接に関わる京都市会への関心を高めるため、学校の議場見学や「京都市会親子ふれあい議場見学会（市会事務局が実施）」等、市会事務局との連携による取組を推進し、地方自治や政治、選挙に対する関心、主体的に選択する力や判断力を高め、他者と協働して様々な課題を解決していく社会の形成者としての資質や能力の育成を図ります。

10 多文化が息づくまちづくりに向けた国際理解教育と，外国人児童生徒等への日本語指導体制等の充実

＜学校指導課＞

日本語の巡回指導の担当教員，学校生活の適応促進や通訳等の母語による支援を行う母語支援

員を配置する等、日本語の理解が十分でない帰国・外国人児童生徒等への支援体制を更に充実させるとともに、指導者の指導力向上を図る取組を推進します。

【28年度の主な実績】

- ・全小・中・高等学校での伝統文化体験活動の実施
- ・日吉ヶ丘高校「英語村」を活用した実践的英語学習・各種交流事業等の実施
- ・京都市図書館所蔵図書为学校への団体貸出を実施（年間 39,930 冊）
- ・「政治的教養を育む教育学習指導案集」を活用した授業や、選挙管理委員会等の外部機関と連携した出前授業を実施
- ・日本語指導担当教員の派遣等の総合的な支援を行うトータルサポート校の設置 など

4. 心身ともに健全でたくましい子どもの育成／いのちを守り切る取組の推進

11 道徳の教科化に向けた道徳教育の充実や体験活動の推進等，子どもの規範意識を育む取組の推進

＜学校指導課，生徒指導課，花背山の家＞

学校・家庭・地域が連携する市民ぐるみの道徳教育を推進するとともに、教科化に向けた実践研究の更なる充実を図ります。また、子どもたちの社会的自立に向け、問題行動の防止はもとより、望ましい生活習慣確立による学力の定着・向上や、仲間との集団生活や自然体験を通じた責任感・自立性・協調性の育成，絆の大切さを実感する取組の充実に向け，保護者・市民団体・学校及び行政機関の連携による取組の推進や長期宿泊体験活動等の取組を充実します。

12 いじめ・不登校の未然防止と早期発見・解決に向けた取組の充実

＜生徒指導課，教育相談総合センター＞

「京都市いじめの防止等に関する条例」や取組指針，各校が定める基本方針に基づき「見逃しのない観察」など教員の「いじめ」に対する意識を一層向上させ，いじめ防止等の取組の更なる充実を図ります。また，各校において，不登校傾向にある児童生徒についての小・中学校間における情報連携を密にしながら，一人一人の自己存在感や自己有用感を徹底的に大切に集団づくりを進めます。不登校児童生徒に対しては，未然防止をはじめ，小集団での体験活動や学習活動等を通じた学校復帰，社会的自立等を支援します。

13 学校・地域・保護者・関係機関等との連携による薬物乱用防止教育の徹底や，ケータイ，スマートフォン，携帯ゲーム機等，携帯情報通信機器の不適切利用防止対策の推進

＜生徒指導課，体育健康教育室，生涯学習部＞

「薬物は子どもたち一人一人の身近に迫っている」との強い危機感を共有し，教職員研修，全校で実施している薬物乱用防止教育の充実や学校・家庭・地域との連携による薬物乱用防止対策を推進します。また，スマートフォン等の急速な普及に伴い，無料通話アプリ等を介したトラブルや犯罪等の危険性，長時間利用等の依存性の問題が増加する中，家庭でのルールづくりや，市民や事業者と連携した啓発活動など，社会総がかりで携帯情報通信機器の不適切利用防止対策を推進します。

14 「健康長寿のまち・京都」の実現に向けた食育・健康教育，体力向上の取組・運動部活動の充実，安全・防災教育の推進

＜体育健康教育室＞

学校給食における和食の推進や食物アレルギー対策等の食育・健康教育を推進します。また，子どもの体力向上を目指した取組や「運動部活動ガイドライン」等に基づく子どもの健康等に配慮した取組を計画的に推進するとともに，外部コーチ制度を活用した中・高等学校における専門性の高い部活動指導の実施を図ります。更には，児童生徒への安全指導，教育活動・登下校中の安全管理の徹底とともに，災害に適切に対応できる能力を培う防災教育を推進します。

【28年度の主な実績】

- ・保護者や地域と共に道徳の「教科化」に向けた実践研究を実施
- ・全小・中・高・総合支援学校（計 259 校）へスクールカウンセラーを配置
- ・29 校（28 小学校及び 1 高等学校（定時制））にスクールソーシャルワーカーを配置し、ニーズに応じ随時支援を行う派遣型スクールソーシャルワーカーを 1 名任用
- ・携帯情報通信機器に関する学習・啓発プログラムの実施（79 校 6,094 人）
- ・小・中・高等学校全校での薬物乱用防止教室の実施
- ・中・高等学校の運動部活動における外部コーチ派遣事業の拡充 など

5. 障害のある子どもへの教育の推進

15 就学前からの切れ目のない支援や総合支援学校における職業教育の充実、発達障害のある子どもへの学習支援の充実等、障害者差別解消法施行を踏まえた施策の推進

＜総合育成支援課＞
きめ細かな就学相談の実施や、就学前段階の配慮・支援の情報を小学校に伝える「就学支援シート」を全幼稚園・保育所等で実施する等、教育・福祉の連携による切れ目のない支援を進め、障害者差別解消法の趣旨を踏まえた、障害のある子ども一人一人のニーズに応じた教育を推進します。また総合支援学校では、職業学科をはじめ高等部生徒の企業実習の更なる拡充を図るとともに、地域と企業等と共に生徒を育む新たな職業教育を推進します。更に、LD（学習障害）等の支援の必要な児童生徒の指導・支援充実のため、引き続き総合育成支援員を必要とする全ての学校への配置や通級指導教室を増設するとともに、高校でのLD等支援の必要な生徒への指導・支援の在り方について研究を進め、幼稚園から高等学校までの切れ目のない支援体制の構築に取り組みます。また、手話言語条例及び推進方針に基づき、リーフレットや手話ビデオ教材の作成・配布等を通じて、児童生徒及び教職員に対し、手話への理解を深める取組を推進します。

【28年度の主な実績】

- ・総合育成支援員の配置充実（252 校 376 名）
- ・LD等通級指導教室で指導を受けている児童生徒数増（781 名）
- ・手話に関するリーフレット配布や講師派遣事業等、理解促進の取組 など

6. 魅力あふれる市立高校づくり

16 進路希望の実現を目指す特色ある高校づくり、「新しい定時制単独高校」や「新しい普通科系高校」の創設に向けた取組、銅駝美術工芸高校の移転整備など市立高校改革の推進

＜学校指導課＞
中学生が、より主体的に高校を選択できる入学者選抜制度の下、市立高校の生徒一人一人の進路希望の実現に向けて、個性・能力の伸長につながる魅力あふれる教育活動を推進します。また、不登校経験や特別な支援が必要な生徒等、新たな教育ニーズに応える「新しい定時制単独高校」や、多様な分野で社会に貢献できる生徒の育成を目指す「新しい普通科系高校」の創設に向けた取組、銅駝美術工芸高等学校の移転整備等、市立高校改革の更なる推進を図ります。

【28年度の主な実績】

- ・普通科系 5 校：4 年制大学現役進学率 67.8%，工業 2 校：学校斡旋就職内定率 100%（15 年連続）
- ・洛陽工業高校と伏見工業高校を再編・統合した京都工学院高校の開校 など

7. 子育て支援の充実

17 子育て環境の一層の充実に向けた市立幼稚園での預かり保育の充実や、子ども若者はぐくみ局との連携

＜学校指導課，生涯学習部＞

子ども若者はぐくみ局と連携し、市立幼稚園や保育園等の就学前施設と小学校との連携を推進するとともに、多様化する保護者の就労形態や様々なニーズに応え、質の高い幼児教育が提供できる「教育・子育て環境日本一」のまちづくりを実現するため、全市立幼稚園で保育時間終了後や長期休業期間中等の預かり保育を推進します。また、妊娠中の方から思春期までの子どもを持つ保護者を対象に、親としての心構えや必要な知識・技術等を子どもの発育・発達段階に応じて学べる「親支援プログラム～ほっこり子育てひろば～」を保健センター、児童館、保育所（園）、幼稚園、小・中学校等で実施し、子育ての不安感・孤立感軽減につながるよう取り組むとともに、これから親になる世代（青少年）のための親学習プログラムの実施を図ります。

【28年度の主な実績】

- ・市立幼稚園全園で、長期休業期間中を含む平日18時までの預かり保育を実施
- ・「ほっこり子育てひろば（子どもを共に育む『親支援』プログラム）」の実施

8. 子どもたちがいきいきと学べる安心安全で特色ある教育環境整備

18 環境と防災に配慮した学校施設・施設整備事業の計画的な推進 <教育環境整備室>
安心安全に学べる学校施設の整備を進めるとともに、災害発生時に地域の緊急避難場所としても重要な役割を果たす学校体育館、防火用水や生活用水として災害対策としても重要な役割を果たす学校プールについて、「学校教育活動の場としてふさわしい防災機能強化型」の施設に向けた整備を行います。更に、老朽化した校舎の長寿命化、省エネルギー等環境に配慮した大規模改修を実施します。また「学校施設マネジメント基本計画」に基づき、学校施設を最適に維持管理し有効活用を図るため、「行動計画」を策定します。

19 学校図書館のリニューアル、学校トイレの洋式化等、学校施設の整備推進 <教育環境整備室，学校指導課>
木のぬくもりの中でくつろぎながら読書や学習ができる学校図書館を目指し、京都市地域産材「みやこ杉木」を使用した机・椅子等の整備を進めます。また、学校における重要な生活空間であるトイレについては、明るく居心地の良い「快適トイレ」への全面改修や、生活様式の変化に対応するため洋式化に特化した改修を促進する等、教育環境や地域の防災拠点としての一層の充実に向けた取組を推進します。

【28年度の主な実績】

- ・校舎長寿命化事業：工事着手(3校)，設計の実施(3校)，基本計画策定(3校)
- ・「京都市学校施設マネジメント基本計画」の策定 など

9. 生涯学習の推進

20 市民だれもが参加できる「学びのネットワーク」の構築と市立図書館の更なる利便性の向上 <生涯学習部，生涯学習総合センター，各図書館>
生涯学習総合センター等における生涯学習講座や、生涯学習団体等が主催の各種講座・イベント情報や施設・施策情報など生涯学習情報の一元的な集約、案内・発信等を行う本市生涯学習ポータルサイト「京(みやこ)まなびネット」の利便性向上とコンテンツ充実等により、生涯学習の主役である市民一人一人の学習活動を支援します。また、市民のニーズや読書スタイルの変化に対応した図書館づくりに向け、市民生活に必要な資料や情報の的確な収集・発信、児童コーナーの整備等を引き続き実施します。更に、中央館4館での土曜開館時間延長のほか、京都市立芸術大学附属図書館との図書資料の相互貸借の開始や京都府立図書館等との相互貸借のスピードアップ、図書返却ポストの増設など、図書館の更なる利便性の向上を図ります。

21 日本初の開催となる「国際博物館会議（ICOM）京都大会2019」の成功に向けた取組 <生涯学習部>
世界の博物館関係者が一堂に会する「国際博物館会議（ICOM）大会」が、平成31年（2019年）

に日本で初めて京都で開催されるにあたり、京都市の伝統産業や観光の活性化も視野にいたした市内体制の強化や、オール京都体制で協議を行う京都推進委員会の運営、京都市内博物館施設連絡協議会（京博連）に加盟する博物館との連携により、市民ぐるみで同大会の機運を高め、博物館・美術館等に親しみ楽しむイベントの企画など、同大会の成功に向けた取組を推進します。

22 文化庁の全面的移転決定と2年後の番組小学校150周年を契機とした京都の教育の歴史と文化力、地域力の一層の発信 ＜学校歴史博物館＞

日本初の学区制小学校として明治2年に誕生した番組小学校が、平成31年に創設150周年を迎え、更に、全国唯一の本市学校歴史博物館が平成30年に開館20周年を迎えるなど、市民ぐるみ、地域ぐるみで推進してきた本市教育の記念すべき節目にあたり、全国をリードする京都の教育のこれまでの系譜を広く発信できるよう、同博物館の企画展・特別展集成の発行とともに、多言語（英・中・韓）パンフレット作成と多言語音声案内システムの常設展導入を進め、外国人観光客の利用を促進します。

【28年度の主な実績】

- ・京都市立図書館における貸出冊数 754 万冊，利用者数 424 万人
- ・4 中央館での土曜開館時間延長の試行実施（H28. 5～8）
- ・I COM京都大会 2019 京都推進委員会の発足 など

「京都市職員コンプライアンス推進指針」に基づく取組の推進

本市では、近年職員が逮捕される事案が連続した事態を受け、不祥事根絶と信頼回復に向け、全市を挙げて取り組んでまいりました。教育委員会においても局長級の「監察監」、部長級の「統括監察員」の下で、課長級以上職員を対象とした「きょうかん推進部会」の定期開催や、学校・幼稚園を含む全所属での職場ミーティングの徹底を通して職員の危機管理意識の共有を図り、また「不祥事防止に向けたチェックシート」や服務研修による職員一人一人の意識向上にも努めております。

そうした状況の下、昨年度は公務外非行による懲戒処分の事例はありませんでしたが、今年度も緊張感の緩みを生じさせることなく、より一層取組を推進してまいります。

重点的に実施する取組

- ・ 学校、幼稚園、教育委員会の各職場において、校長・園長や所属長が教職員・職員一人一人に、業務上の課題や人間関係、家庭生活上の悩み等を聴き、適切な指導・アドバイスを行う機会を増やし、風通しのよい職場づくりを一層進めると同時に、事務処理誤りや事務の停滞、公務外非行等の未然防止に努めます。
- ・ 「教職員と児童生徒間の携帯電話等の使用について」の通知に基づき、教職員の携帯電話や、SNS（ソーシャル・ネットワーク・システム）の使用について、より一層の適正化・厳格化を図ります。
- ・ 教職員ヒアリング、チェックシートに基づく自己点検、職場ミーティング等を通じて、コンプライアンスの徹底や職業倫理の向上の機会として、年二回の「ブラッシュアップ月間」を設定します。
- ・ 本市で管理運用する情報システムについて、情報セキュリティの観点から、手続の適正化や個人情報保護等を目的とした仕組みづくりを一層推進します。

「京都市市民参加推進計画」に基づく取組の推進

- ・ 地域に開かれた学校づくりを進めるために、学校運営協議会の拡充をはじめ、学校や子どもの情報や課題、課題解決に向けた行動や評価の共有など、保護者や地域の方々への的確かつ積極的な情報発信を行います。また、保護者・地域の方々との共汗で新しい学校づくりを進めるため、徹底した議論や検討を通して説明責任を果たしてまいります。
- ・ 子ども若者はぐくみ局とともに、「京都市はぐくみ憲章」の理念のもと、子どもを笑顔で温かく見守り、地域や社会の宝として大切に育む「はぐくみ文化」の創造・発信により、家庭の教育力向上や市民ぐるみ・地域ぐるみで子育てを支え合う風土づくり、子ども一人一人が健やかに育つことのできる社会づくりに取り組みます。
- ・ 京都市内で開催される生涯学習に関する各種講座・イベント等や市内の生涯学習関連施設に関する情報の集約と積極的な発信を進め、子どもからお年寄までが生涯を通じて学び続けることのできる生涯学習のまちづくりを推進します。
- ・ 教育委員会事務局と学校現場、また福祉や医療等のあらゆる関係機関との連携のもと、職員一人一人が本市の教育課題に対して「人ごとではない自分ごと、みんなごと」として捉え、市民の皆様との双方向の「伝え合う力」を大切にし、教育委員会、学校、家庭、地域の連携による本市教育の充実を進めます。

平成29年度 京都市教育予算

【予算規模】

項目	29年度	28年度	増△減	前年比
教育費	1073億7100万円	465億4700万円	+608億2400万円 (実質+25億1485万円) ※3	+130.7% (実質+5.4%) ※3
内	学校・事務局等運営費 (うち給与費移管分) [はぐくみ局移管分]	146億1856万円 (2億8347万円) ※1 [△28億3500万円] ※2	175億7798万円 (実質△4億789万円) ※3	△29億5942万円 (実質△2.3%) ※3
	建物等施設整備費	125億5744万円	92億6602万円	+32億9142万円
訳	人件費 (うち給与費移管分) [はぐくみ局移管分]	801億9500万円 (612億653万円) ※1 [△3億4585万円] ※2	197億300万円 (実質△3億688万円) ※3	+307.0% (実質△1.9%) ※3

※1 給与費移管関連経費総額は614億9000万円で教育費の内数。

※2 子ども若者はぐくみ局移管予算(総額31億8085万円)は外数。

※3 ※1, ※2の影響を除いた実質的な増△減及び前年比

【予算の特色】

平成29年度京都市予算は、極めて厳しい財政状況のもとではあるが、本市小・中・総合支援学校教職員の給与負担の権限等が京都府から移譲されることに伴い、そのメリットを最大限に生かし、国基準を上回る少人数教育の実施など、引き続き教育環境充実に取り組む経費とともに、市政の基本計画である「はばたけ未来へ！京プラン」に掲げた京都の未来像を着実に実現するための経費に、財源が重点配分された。

教育委員会では、「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」教育理念の下、経済状況や家庭環境にかかわらず、全ての子どもに「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む教育の更なる充実に向け、

- 1 独自予算による小・中学校における少人数学級の継続、小中学校学習支援プログラム充実、放課後・学力ステップアップ事業充実、土曜学習等による学力向上、
- 2 しなやかな道徳教育総合実践推進事業や文化庁移転に向けた伝統文化体験活動充実等による豊かな人間性の育成、
- 3 学校給食における「和食」の充実や薬物乱用防止教室、子どもの体力向上「ジャンプアップ・プロジェクト」等による健全でたくましい子どもの育成

などに取り組むと同時に、就学支援シートの活用・充実や総合育成支援員の配置など障害のある子どもへの教育の推進、「いじめの防止等に関する条例」の実践やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの増員等によるいじめ・不登校対策、学校運営協議会設置校の拡大などの開かれた学校づくり、市立高校かがやきプランの実施など魅力あふれる高校づくり、さらには、子どもたちによる国際文化観光都市・京都の魅力発信事業や「京の食文化」普及・啓発事業など京都ならではの取組を、独自の方式で積極果敢に推進する。

さらに、日々の学びを支える学校施設について、環境にやさしく、防災機能を高める改築・改修のほか、トイレ洋式化や学校図書館の環境整備など、全市的な学習環境の充実を展開する。

また、「豊かな人生は学びとともにある」という観点から、まち全体を学びの場とすることで、あらゆる世代の方が自ら生涯を通じて学び、その学びをまちづくり、地域、子どもたちのために活かすことのできる取組を進めるとともに、次代を担う子どもたちを市民ぐるみで健やかに育むため、「京都はぐくみ憲章(子どもを共に育む京都市民憲章)」の実践に向けた取組を推進する。

この予算を最大限に活用し、市民の皆様と共に汗する「共汗^{きょうかん}」で、全国をリードする教育改革をより一層強力に推進する。